

四月十五日

考えては眠り、眠っては考えている。珍しく考える人である。室内、原稿書く。開放系技術について、月々のノート風に書いてみようかと思いついた。

四月十六日

室内の為のスケッチ七枚描く。興が乗って面白かった。研究室からかなり多くの図面届く。見るべきものは少ない。仕方無い。自分でやるしか無い。

イラクの反米レジスタンスにとらわれていた日本人三名が釈放された。何はともあれ人の命は何よりもかけがえないものだから、彼等が命をとりとめた事は良かった。しかし、国際的なTVネット網により送られてくる彼等の映像は、現実の酷薄なりアリティとはかけ離れた、幼児性を帯びたものであった。TVを見ている限りでは、彼等は日本政府のネゴシエイションによって解放されたわけではなく、イスラム宗教家のテレビでの呼びかけによって救われたと言って良いものらしい。イタリア人の四人の人のうち一人は射殺されているから、彼等の解放は運が良かったと言わねばならないものだろう。

小泉首相はイラクに残りたいと発言した日本人の人間に関して、流石に、自覚が足りない、とTVインタビューに答えていた。公明党の幹事長は、大変な公金を使って救出したのだから、何がし

かは支払ってもらわねば、の発言をしていた。いかにも日本の政治である。しかし、このケースは山岳での遭難と殆ど同じ状況のものであるから、山岳での救助活動がそうであるように、何がしか彼等に請求するのは当然であろう。勿論、解放されたからこそ言える事だが、彼等の如き典型的平和ボケ日本人を自覚させるには、巨額な請求書しかないのではあるまいか。しかし、自衛隊出兵を敢行してしまった小泉首相を支えているのが、同じようなボケ民衆なのだから、何をか言わんやなのである。イラクは戦争の最中なのである。戦争は単純なヒューマニズムが通用する場所ではない。しかし、TVは新しい権力を施行していること、はなはだしい。今度の事件も、国際的なTVネット（アルジャジーラを含めて）が存在しなければ、我々は知りもしなかつたろう。情報の即時性、高速な流通性は瞬時に世論を形成する。事件や出来事の当事者達の顔の表情、仕草、そして何気ない発言が、TVカメラによって、瞬時に全世界に流通してしまう。そして、好き嫌い、好ましい、不愉快であると言う類の感情を喚起させ、集合して、世論、あるいは風評の如きものが生まれる。イラクの人間事件では、恐らくTさんという女性のTVで放映された表情、仕草が多くの人に、ささいな不快感を与えていたのではあるまいか。彼女の発言は自己責任が確立していれば、全く正しい発言（イラクにとどまり、イラクの子供達の助けになりたいという）なのだが、彼女の表情が、その発言を自己責任とは程遠いものにしてしまっていた。TVが彼女とは異なるタイプの女性をアイドルに育てあげるメカニズムを視たように思った。

まだ銅版画製作のきつかけが得られない。描きたい気持ちは強いのだが、描かせる力が身体の動きにつながらない。明日に期待しよう。しかし、我ながらまわりくどい事をしている。建築の絵

になるのか、そうはならないのか、それが知りたいだけなんだが。